

令和7年（2025年）3月25日

札幌市立月寒東小学校
校長 森井 由見

令和6年度 学校自己評価書（後期）

◆本校の学校関係者評価委員

| | | | |
|---------------|---------|------------|----------|
| P T A会長 | 大森 洋介 様 | あやめ野児童会館館長 | 柴田 恵里子 様 |
| こども園ひかりのこ園長 | 今野 路子 様 | かつこう幼稚園園長 | 菅野 道正 様 |
| 交通指導員・スクールガード | 佐藤 俊幸 様 | 中学校区P連副会長 | 八木 静花 様 |

1 本年度の重点目標

「やればできる！挑戦！」～笑顔つながる～

2 本年度の学校経営5つの方針と評価項目

| | | | |
|-----------------------------------|------------------|----------------------|-------------|
| (1) まなびの充実 ～「学ぶ力」育成プログラムの推進～ | 分かる・できる・楽しい授業 | 学習習慣の向上・学習規律の標準化 | |
| (2) こころの充実 ～「豊かな心」の育成～ | 気づき、考え行動できる | 命の指導、いじめ・悩み不登校の組織的対応 | よりよい人間関係の構築 |
| (3) からだの充実 ～「健やかな体」育成プログラムの推進～ | 体育に関する指導の充実 | 健康に関する指導の充実 | |
| (4) 学校力の充実 ～やりがい・すっきり～ | 学び合う教職員協働精神で組織対応 | 業務改善、効率化 | 安全・安心な学校 |
| (5) 対話の充実 ～迅速、適切、丁寧～ | 保護者と | 地域と | 異校種、関係機関と |

【学校経営のスタンス】

「やればできる！挑戦！」の重点目標達成のため、子どもたちが「人」「もの」「こと」と積極的に関わりをもち、「自分が好き」「友達が好き」「学校が好き」という思いを高めたい。そのために、「子ども同士」「教職員同士」「学校と保護者」「学校と地域」が繋がることが重要だと考える。みんながつながり笑顔あふれる学校をめざしたい。

3 自己評価結果

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 | | 関係者評価 | |
|----------------|---|------|--|-------------|-------------|
| | | 達成状況 | ○現状 ★改善の方策 | 現状把握の適切さ | 改善策の適切さ |
| 重点目標 | スローガンを意識し、子どもたちの努力の過程を認め、自主性や挑戦する態度を養っているか。 | A | ○学校教育目標を実現するベースとして、児童・教師・保護者・地域間での「つながり」を大切に温かい関係づくりに重点を置いて教育課程の推進を図ってきた。 ★児童の自主性を重視し、重点を意識した教育課程の実践が見られた。今後は、児童同士、教職員同士、学校と保護者、学校と地域のつながりについて、具体的な子どもの成長や成果が表れるように、検証を進めていく。 | ○妥当 ●不適當 | ○妥当 ●不適當 |
| 評価委員の皆様からのご意見① | <ul style="list-style-type: none"> 生活科「おもちゃランド」や5年生の幼稚園交流など、互いに笑顔になるつながりが、次年度へも継続されることを願う。 子ども同士がお互いの良さを認め合える機会が増えていくことを望む。 いろいろなつながりが子どもたちの成長や成果として表れており素晴らしい。このような面をさらに情報発信してほしい。 今後、CS（コミュニティスクール）がスタートしてからも、「つながり」が広がっていくことを楽しみにしている。 | | | | |
| まなび | □「学ぶ力」育成プログラムの推進 ■分かる・できる・楽しい授業づく | B | ○課題探究的な学習を軸に今後も校内授業研究を重ねる中で、学ぶ楽しさや意義を実感できるように教材を考えたり、能動的に学ぶ子どもを育むための指導や評価について検討したりすることに視点を絞り、児童の学ぶ意欲や学びに向かう力の | ○妥当 ●不適當 | ○妥当 ●不適當 |

| | | | | | |
|----------------|--|--|--|--------------------|--------------------|
| の充実 | り・授業改善 ■学習習慣の向上・学習規律の標準化 | | 向上を図っていくことができた。 ★児童の基礎的・基本的な学びの定着や言語活動の充実を図りつつ、能動的に学習を進めるための授業構成や教師の適切な関わりをめざした学校研究体制を整える。 | | |
| こころの充実 | □「豊かな心」の育成 ■ <u>気づき、考え、行動できる</u> ■命の指導、いじめ・悩み・不登校の組織的対応 ■よりよい人間関係の構築。 | A | ○児童一人一人が自己肯定感をもち、自ら考えて行動できるように、担任はもちろん、学年で(複数の目で)一人一人に寄り添い、児童の変容を見取ることができた。 ○いじめや不登校の問題、命を大切にする指導について、子どもの人権を守り一人一人に寄り添う指導の徹底を図り、早期発見・早期対応を心掛けた組織的対応を目指してきた。 ★児童が他者とのつながりを意識できるように、学校生活全体の中で適切な目標設定を行い実践していくようにする。 | ○ <u>妥当</u> 不適當 | ○ <u>妥当</u> 不適當 |
| からだの充実 | □「健やかな体」育成プログラムの推進 ■体育に関する指導の充実 ■健康に関する指導の充実 | A | ○養護教諭や栄養教諭と連携した保健指導や食指導、運動委員会による校内イベント、休み時間の積極的な外遊び推奨、学年の発達段階に応じた体力向上の取組「にれトレ」などにより、成果として児童の持久力の向上が見られた。 ○子どもたちが楽しみながら体を動かしたり、食や健康の大切さに気付いたりできるように、工夫した指導や取組を行うことができた。 | ○ <u>妥当</u> 不適當 | ○ <u>妥当</u> 不適當 |
| 評価委員の皆様からのご意見① | | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが能動的・主体的に、自ら提案したくなる授業構成、栄養教諭や養護教諭による児童へ寄り添った指導など、組織的な連携が素晴らしい。 ・いろいろな体験が子どもたちの成長につながり、小さな出来事を喜びと感じる感性が育っている。 ・養護・食など、今の時代の子どもたちには大切な事。今後も充実を図ってほしい。 ・今後も、自尊心と併せて、しっかりと自立心がもてるようなプログラムに力を入れてほしい。 ・スキー学習の中で、「やってみる→できる→もっと成長したい」という意欲が見られた。自分の気持ちや意見を声に出し、トライしてみる姿勢が育っている。 ・家庭学習を推奨するようになってからの、児童の学力の推移を知りたい。 | | | |
| 学校力の充実 | □やりがい・すっきり ■学び合う教職員、協働精神で組織対応 ■業務改善、効率化 ■安全・安心な学校 | A | ○指導法やICT活用、児童理解に関する様々な研修を組織的に行い、各教員の指導力向上を図り、お互いに学び合う教職員集団を目指すことができた。 ○会議や打合せの精選、教職員の働き方改革を推進するとともに、児童と関わる時間を増やし、指導の中に教職員としての誇りとやりがいをもつことができた。 ★校内外の環境整備や情報管理等、様々な危機管理を徹底し、安全で安心できる学校、信頼される学校を目指していく。 | ○ <u>妥当</u> 不適當 | ○ <u>妥当</u> 不適當 |
| 対話の充実 | □迅速、適切、丁寧に ■保護者との対話と連携 ■地域関係機関との対話と連携 ■異校種との対話と連携 | A | ○保護者との個別の対話を丁寧に言い、よりよい関係づくりに努めることができた。 ○児童の交流や関連行事・関連業務等について、近隣幼稚園・こども園等との対話を通して連携を深めることができた。 ★パートナー校(あやめ野中学校、あやめ野小学校)とのつながりを強化し、教師間交流だけでなく、児童生徒間のつながりも意識して対話を行っていく。 | ○ <u>妥当</u> 不適當 | ○ <u>妥当</u> 不適當 |
| 評価委員の皆様からのご意見① | | <ul style="list-style-type: none"> ・児童との関わりを大切にし、児童の成長を感じながら仕事にやりがいを感じられるように、働き方改革が推進され、子ども・保護者・教職員がつながることができる運営がなされていると拝察する。 ・地域と学校が、気になる児童の行動を気軽に共有し合える関係づくりを続けていければと思う。 ・ICTの活用により、教職員の扱う情報の物量は減っているが、内容は今までと変わりなく、手軽に扱えるようになった分、慎重な取り扱いをお願いしたい。 | | | |